

四 国 へ ん ろ

高野山大学を卒業してすぐに、四国 88ヶ所霊場を単身で歩きました。私は 48 日間の徒歩遍路によって、「辛抱をする」「時を待つ」ことをしっかり学びました。

歩き始めの「阿波の国」では宿さがしに夢中です。みすばらしい一人遍路はなかなか泊めてもらえません。夕暮れの宿さがしはみじめで、心細いものです。そんな情けない思いを幾度も経験したものです。

次の「土佐の国」は札所から札所の距離がとても長く、いやがうえにも野宿をしなければなりません。生まれて初めて、海岸の林のなかで野宿をしました。それ以来、宿さがしへの執着がプツリと切れました。しかし土佐路は、次の札所への道は遠く、足の痛みをこらえて先を急ぐ日々です。一日 52 ㎞を踏破した日もあり、記録更新に満足していました。

「伊予の国」では、旅になれてきて、ゆっくり歩くことが楽しみになります。深い山道は人の気配がなく、怖いけれども、森林の精気によって心身が軽くなります。風雨に身をまかせ、自然界と一心同体になります。とくに露に濡れた草道は、足の痛い私には最高の気分を味わうことができるコースです。伊予路は同行と歩きながらの会話を楽しみました。

最後の「讃岐の国」では自分自身の性格や将来などを考え、人生をじっくりと静観する時間が多くなります。ここでは「本来無一物ほんらいむいちもつ」を実感しました。自分自身の性格が見えるようになり、与えられている宿命を認識し、それを受容する心構えが養われたように思います。

四国遍路は、いつも弘法大師の掌の上を歩いているような感じをうけます。歩いているうちに、お大師さまにおまかせするという気持ちが定まって、悩みの糸口が見えたり、亡き人の思いが蘇ってきてたりします。将来の心配や不安に沈むのではなく、このままの自分でいいのだと教えられました。

ホームページ「金龍寺たより」の内容は、月二回変更しています。今年のテーマは「巡礼」です。皆さまにも四国遍路や観音霊場などの懐かしい思い出がありましょから、是非お寄せください。「金龍寺たより」は、私だけが書くのではなく、皆さまの声が反映された紙面にしていきたいと願っています。

We update our website twice a month. The theme of this year is "pilgrimage."

We appreciate if you share your good memories of the pilgrimage with us because we think you also have some experiences when you take trips to some religious places like Shikoku Eighty-eight Sacred Temples, Way of St.James in Spain, and so on.

We are really looking forward to seeing yours so that we can make this web site much better with you.